

子どものネットトラファル どう防ぐ?

前回、小中学生にLINEを使ってほしくない理由として「人間関係崩壊の心配を挙げた。今回は「時間的・心理的拘束の強さ」という面を見ていく。

まずは時間的拘束から。

文科省が2007年から毎年4月に小6と中3に行っている全国学力学習状況調査によると、携帯・スマホの利用時間が短い子どもは、それが長い子どもに比べ、明らかに正答率が高いという。具体的には、ネット利用が毎日30分未満の子と4時間以上の子では、どの教科でも平均14点以上

もの差が付く。つまり、ネットをやるほど学力が低くなるのが証明されている。

また「LINEを使うほど学力は低下する。それは勉強・睡眠時間の長さより強い影響がある」との調査結果(東北大学川島隆太教授・仙台市教委「学習意欲の科学的研究」に関するプロジェクト「2015年3月19日」)も。平日の通信アプリ(SNS)の使用時間が学習時間や睡眠時間に悪影響し、結果的に数学の成績が落ちることを調査から導き出したそうだ。

これらの客観的データからも、LINEをはじめ

めとする通信アプリが学力に確実に悪影響を与えている事実が浮かび上がる。

スマホ依存、ネット依存という言葉が示すように、スマホやネットの魅

学力低下につながる

心も時間も支配される危険

依存してしまつ傾向があるのは確かだ。

次は心理的拘束の面を見てみよう。

例えばLINEのような通信アプリでは、気軽にメッセージが送れる半面、その返信がすぐに返ってこないとなつて仕方がない場合がある。

子どもたちの場合は特にそれが顕著。返信が遅く「シカト? (無視)」と悪意に取られるのが嫌で「できるだけ早く返信をしなくては」と心理的に

追い詰められ、スマホを手放せなくなる子どもも多い。

「ひと月待たした手紙の返事、メールになつて一週間、LINEになつて一時間?、待てなくなつて、せわしないね」。14年9月、京都市の佛光寺にて掲げられた標語だ。

LINEをはじめとした通信アプリは上手に付き合わないとも心も時間も支配される危険性がある。特に子どもは大人以上にその傾向が強い。今一度親子で時間や方法について話し合つてほしい。

LINEをやらないとしても、小中学生のネット時間は一日1時間以内に。それ以上ではさまざまな悪影響が出る可能性が高い。

